憩いの円筒分水
～地域住民の拠り所～

約400年もの
古い歴史を持つ
「久地円筒分水」。

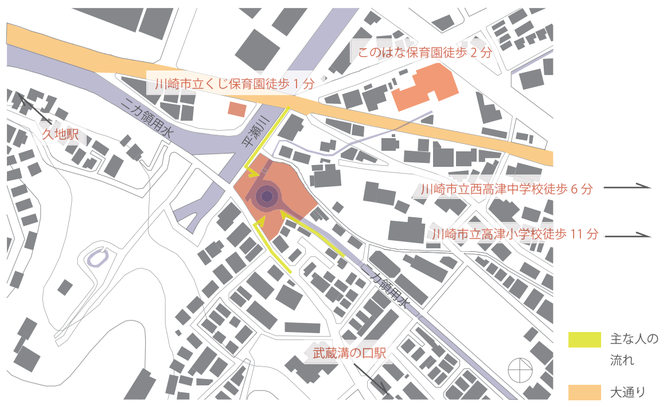
川崎に流れる農業用水の
分量を支えてきた。

今でも国の登録有形文化財
として残っている。

地域を発展させ
支えてきた、
かけがえのない歴史を
継承し、
保全していくため、
古きを知るお年寄りから
子供までが繋がる
地域コミュニティーを
形成させる。

21810284 仲田来未

■計画敷地



◎久地円筒分水

住宅街に囲まれ、
小さい子供からお年寄りまで
地域の幅広い世代が訪れる

散歩・ランニング途中の休息や
既存の芝生で遊ぶ、親子の姿も
見られる

周辺には保育園・小学校・中学校
等、子供の多い地域でもある

敷地面積：1700 ㎡ / 用途地域：第一種住居地域 / 住所：川崎市高津区久地 1-34
アクセス：JR 南武線「久地駅」から市営バス「第三京浜入口」行き、東急バス「二子玉川」行き、「新平瀬橋」下車、徒歩 2 分
JR 南武線「武蔵溝ノ口駅」、東急田園都市線・東急大井町線「溝の口駅」から市営バス「向ヶ丘遊園南口」行き、「新平瀬橋」下車、徒歩 2 分

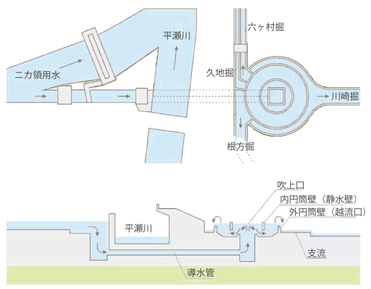
■久地円筒分水について

円筒分水に流れるニカ領用水は、徳川家康による新田開発の命令により、関ケ原の戦いの 3 年前（1597 年）から測量が始まり 1611 年に完成。網目のように設けられた用水を中心に地域共同体が形成され、川崎の骨格が作り上げられていった。

農業地帯として発展し、米の収穫は飛躍的にアップした。
→しかし水源争いが起きてしまう。そこで争いを収めたのが「久地円筒分水」。

◎円筒分水の仕組み

二ヶ領用水から取り入れられた水は平瀬川の下を潜り、再び噴き上がってきた水を円筒の円周比により四つ堀に分水し、各堀へ正確に用水を供給した。



―この技術は当時として大変優れた自然分水方式だった。―

歴史的な重要性や、全国に広がる初期の円筒分水の事例である事から平成 10 年には国の「登録有形文化財」にも登録され、地域の穏やかさを取り戻し、平和を保ってきた、かけがえのない歴史を持つ文化財。

■現状と課題

有形文化財に登録されているにも関わらず、簡易な柵で覆われ、ベンチに屋根はなく、芝生が広がっていて整備されきれていない。

現在、行政との協働でボランティア団体「円筒分水サポートクラブ」が活動中。
しかし資金不足・高齢化による後継者問題を抱える。

〈主な活動内容〉
・美化活動…清掃 / 花植えプロジェクト（土壌改良　花植え　水やり　土や花の購入等）
・小学校への講演（総合学習への協力）では、「二ケ領用水と久地円筒分水」の授業

―地域にとってかけがえのない長い歴史を持つ円筒分水を、どう守っていくのか。―

■Plan

◎地域住民の憩いの場

・子供の溜まり場（虫取り / 遊ぶ / 芝生）
→訪れた子供たちに円筒分水に親しみを感じてもらう

・住民の息抜きの場所
→円筒分水を活かした安らぎの空間を提供、居場所をつくる
→ランニング・散歩の休憩所

◎観光資源としての活用

・展示スペース・シアタールーム
→円筒分水について知ってもらえる機会をつくる
→学びの場としての活用、子供の自由研究等の場

・ニカ領用水を守る活動の大きな活動拠点
→現在、区によって管轄が違うため、一貫性のない保全活動になってしまっている。

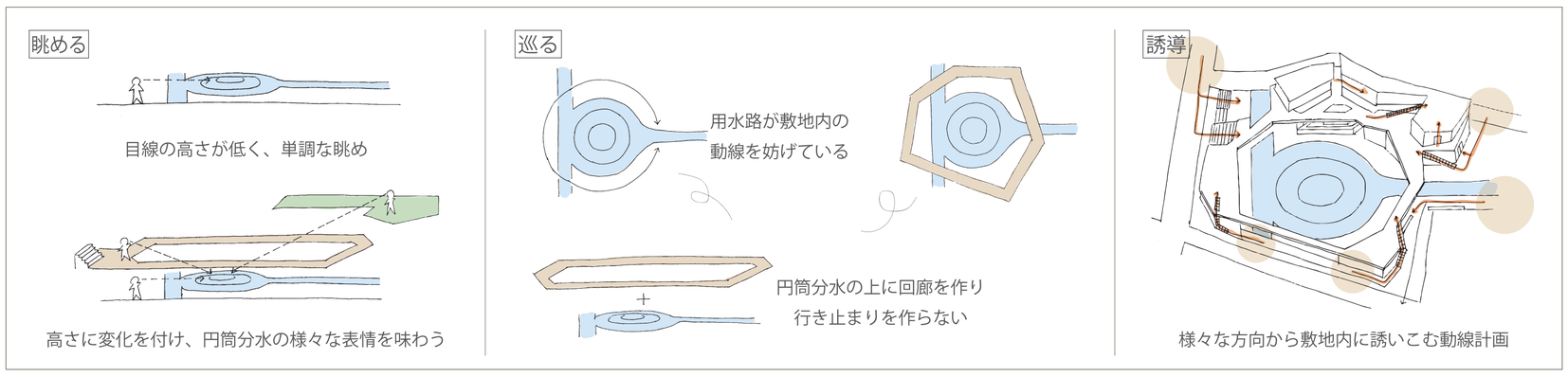
・円筒分水展望スペース
→数少ない川崎市の観光スポットとして活性化させる

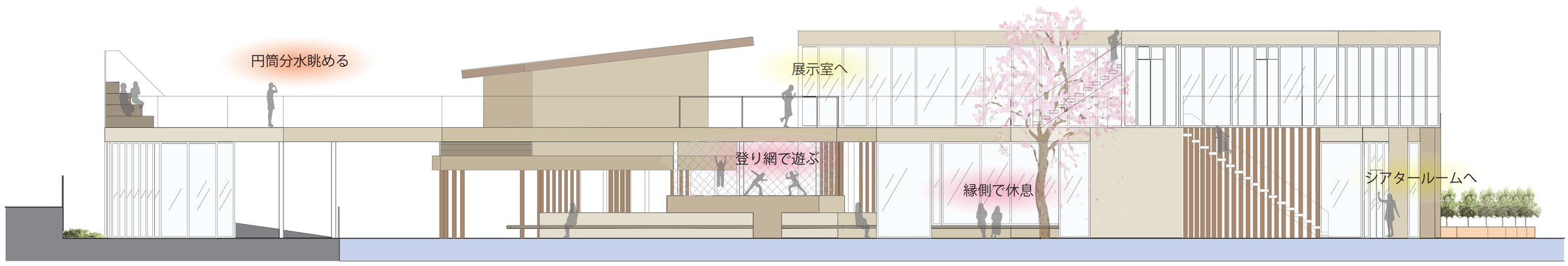
気軽に立ち寄り、
憩いの場となる空間を造ることで、
円筒分水に親しみを感じ、
興味を持ってもらう事で、
活動やイベントの勧誘をするきっかけをつくり、
円筒分水保全活動の活性化を図る。

円筒分水の清掃

■Target

■Diagram





A-A′ 方向断面図 S:1/100